

生駒市市民自治検討委員会設立準備会（第14回）議事要旨

日時：平成17年2月15日（火）18：30～20：45

場所：市役所402会議室

出席委員（敬称略）：相川、中川、野口、上埜、金谷、鶴田、森

1. 「生駒流市民自治をみんなで語る会」の開催に向けて

事務局：本日の案件としては、3月5日、6日に開催する「生駒流市民自治をみんなで語る会」の最終確認と庁内の取組み状況の報告の二つである。

野口委員：中川委員から遅れるとの連絡があったので、来られるまでの間、私がピンチヒッターをする。まず、事務局からの報告をお願いしたい。

事務局：「生駒流市民自治をみんなで語る会」開催要項（案）の説明をしたい。6の「開催内容」の最終確認をお願いしたい。周知方法は、広報紙への掲載、自治会掲示板や公共施設へのポスター掲示など。議会の後援もとりつけた。前回の会議をもとに作成した資料で説明するが、全体の流れの確認と役割担当を決めてほしい。（配布資料の説明）

野口委員：時間の流れはこれでよいか。

金谷委員：今回の運営協力が自治連合会になるということであるが、前回のシンポジウムはNPOでお手伝いをしたので、今回も日程を空けていた。自治連合会になるなら、もっと早く連絡してもらいたかった。

事務局：これは案であり、自治連合会に固定するということではない。

野口委員：まずは決めるべきことから。このような時間の流れでよいか。

森委員：これしかないのではないかと。

野口委員：スケジュールはこれで進めることとする。次は担当者をどうするかということ。

森委員：配布されているリーフレットのプロフィールについて、私の箇所が空白になっているのは失礼ではないか。わからないのであれば、事前に電話で確認してほしい。

野口委員：会議である以上、この場で決めることを先に話すべきで、事前に電話で、ということ

はない。誰が役割として適当かということに焦点をしばって話をしてほしい。

相川委員：プロフィールは私もblankになっている。これはシンポジウムの時の資料をベースにしたものであって、このまま出るわけではない。

野口委員：元に戻るが、スケジュールはこれでよいということで賛同を得た。担当者はこれでよい。会場設営は事務局にお願いすることになるが。

事務局：参加者が50～60人ぐらいなら事務局で対応できると思う。もっと増えた場合どうかと思っている。

野口委員：事務局は4人ということか。

事務局：そうである。

森委員：私も椅子ぐらいであれば運ばせてもらう。

事務局：手伝っていただけるのはありがたい。

野口委員：私も家が近いので、4人プラスで準備することとしたい。

事務局：できるならば準備会委員さんをお願いしたい。

野口委員：委員は10時30分に集合して、11時から打合せということでいきたい。

(中川委員が来られる。)

野口委員：11時までは決まった。13時からの問題で、ボランティアスタッフの人数はどうするか。5人でいけるのかということをお諮りしたい。

金谷委員：自治連合会とNPOが協力するのはよいことである。あとどのくらい不足するのか。その分をNPOで埋めていきたい。

野口委員：前ほどの人数はいらない。何名あればいけるか。

事務局：受付は3名でいいと思う。場内で質問用紙の回収や分類をする人手が必要である。意見交換の際、マイクを持って走る人も必要。

中川委員：自治連合会で5名おられるのなら、あと3名くらいでいいのでは。受付は自治会とNPO

Oの両方で担当すればよい。

野口委員：最大8～10名で、NPOテイクオフさんにもお願いするということでしょうか。

事務局：テイクオフさんは前回の経験があるので、我々もそれがよいと思っている。

中川委員：中間報告の説明は誰がするか。相川委員にお願いできないか。

相川委員：了解した。

事務局：それでは進行について整理する。3月5日、6日とも同じ流れでお願いします。10時から12時は会場設営で、事務局は10時集合。10時30分に準備会委員にも集まっていただく。11時から12時に最終打合せ。12時から13時の休憩をはさみ、13時にNPO・自治連合会の方々に集まっていただき、30分ほどボランティアスタッフの打合せをする。13時30分から14時に受付・案内ということで、NPOと自治連合会の方にやっていただく。14時に開会し、司会は事務局で、「語る会」の趣旨・進め方の説明、準備会委員等の紹介、質問票の説明を行う。それ以降の進行は中川委員にお願いします。14時10分すぎから中間報告書の説明を相川委員に10～15分程度でお願いし、その後、各委員から所信表明を1～2分でお願いします。10分の休憩をはさみ、その間に質問票を回収し、準備会委員に仕訳けしていただき、14時45分から参加者との意見交換を行い、16時に閉会とする。

中川委員：できるだけ全委員がバランスよく答えるのが望ましい。得手でない質問については、無理なら無理と答えていただいてもよい。市民としての立場だけはしっかりおさえてほしい。行政の代弁者ではないということ。

事務局：これで進行が確定したので、後ほど修正版をお送りする。リーフレットもある程度埋められるが、プロフィールは事務局で今情報を持っているものだけ載せた形であり、きちんと載せるためにも書いたものをいただきたい。アンケートについては、問3を新たに入れ、前回からの経過を見てみたいということ。

2. 庁内アンケート実施結果について

事務局：お手元に「生駒市市民自治アンケート（所属別）集計表」があると思うが、調査票と併せてご覧いただきたい。（配布資料の説明）

森委員：市民活動推進課で「今後の取り組みがない」というのはなぜか。

事務局：集計表の4ページ目を見ていただいたらわかるが、既にやっているものがこれだけあり、

17年度から新規事業として取り組むというものはない、ということである。

森委員：市民との関わりが深い部署で、回答が「ない」というのはどうしたものか。

事務局：その課が出した生のデータであり、事務局で手を加えていない。管理者がどのように考えているかということである。

中川委員：問3は「今後の新たな取り組み」とした方がよいのでは。「今後の取り組み」とした場合、「ない」という回答は市民参加がないように聞こえる。

事務局：ご指摘の部署について、現状はあると思うが、とらえ方の問題であろう。

野口委員：いわゆる温度差があるということであろう。

3. その他

森委員：先日、金谷委員のご案内で、箕面の市民活動センターへ行ってきた。箕面はNPO活動が活発で、市が条例をつくって支援している。市がNPOに仕事を任すような形をとっている。法人化されていなくとも、小人数であっても、NPOと認められていて、現在80ぐらいあるようだ。

金谷委員：一昨年に行って、今回が2回目だが、この1年で取り組みが非常に進んだ。指定管理者になっているNPOもある。NPOが定期的にオープンな会合を開いており、意見交換が活発に行われている。この1年での進み具合に驚き、生駒も頑張らねばと思った。

中川委員：当日「所信表明」をお願いするが、この言葉にこだわらず、自由に意見を述べていただければよい。箕面と生駒は、人口規模や、農村地帯と住宅地帯が混在した市のタイプという点で似ているが、政策的な進め方は似ていない。箕面では、NPO政策を先に進めたため、コミュニティ政策が後手に回っている。NPO政策とコミュニティ政策は同時、もしくはコミュニティからNPOの順に進めなければならない。もう生駒はハード面でのまちづくりはできるだけ抑制し、ソフト面、つまりルールづくりや民主的な集団づくりに投資すべき。箕面は今それに気づき、市民学習会等を懸命に行っている。NPOがコミュニティを敵視するのは間違いで、本当のしっかりしたNPOならば地域と連携をとっている。

上埜委員：自治会は連合体として、横にも、県や国の縦方向にもつながっている。NPOも自治会のメンバーなのだから、いろんなことを自治会の中で十分に討議してほしい。

中川委員：その考えは、このメンバーだけでも共有してほしい。

上埜委員：いろんな市民団体があるが、みんな自治会員であり、自治会の中で意見を出してほしい。

中川委員：そもそも市民は地域社会の構成員である。形式的に自治会に入る・入らないの自由はあるかもしれないが、そのコミュニティに入らないという自由はない。結社型の団体、すなわちアソシエーションが市民のさまざまな自己実現の場を吸収し始めているが、アンチ・コミュニティになってはいけない。両者がどうやったらうまくいくかが最先端の課題である。真ん中で苦しい思いをしているのがボランティアである。社会福祉協議会しかボランティアセンターを担えないため、福祉以外の活動がやりにくい。ボランティアの片側にコミュニティ、もう片側にアソシエーション。この三つの関係の中で、個人と集団がどのようにうまくやっていくかということである。

上埜委員：検討委員は原則として自治会から出してほしいと思う。

森委員：そのようなお考えならば、私は気持ちが進まない。

中川委員：わが国では、人は地域コミュニティに所属せざるを得ないということを認識している人が少ない。欧米では、自治会こそないが、コミュニティに協力しない人は出ていってこれということになる。ところが、日本ではその土地に住んでいながら自治会には関わらなくていいと思っている人がいる。一方ではコミュニティだけで解決できない問題が増えてきており、アソシエーションとしてのNPOなどが必要になってくる。コミュニティとアソシエーションは役割が違う。片方が必要で片方がいらないということには絶対ならない。報告書にも書いてあるので、追体験していただきたい。

事務局：所信表明の際に、そういうことも思い浮かべながらお願いしたい。

中川委員：上埜委員がおっしゃったのは、市民全員が自治検討委員会に参加すべきだということ。しかし、参加するのであれば、要求や文句ばかりではなく、きちんと提案できる人でなければ困る。

鶴田委員：検討委員会のあり方の具体的なことを決めるのは、この場か、あるいは事務局に任ずるか。

中川委員：具体的な内容については、事務局に返そうと考えている。

鶴田委員：NPOはたくさんあるが、どれだけ市は把握されているのか。また、各種団体の代表として参加する人については、自分の団体の役割がわかっている上で、自分の考えをきちんと持っている人に入ってほしい。何年たっても同じような議論の繰り返しや、きれいな文章・冊子だけができあがるのでは意味がない。

中川委員：具体的なイメージとして名張の例をご紹介したい。名張市市民自治検討委員会でもとめた報告書である。これは自治基本条例の原案であり、次の検討委員会ではここまでつくってもらわ

なければならない。だからこそ提案でき、議論できる人に集まってほしい。コミュニティからも、ボランティアからも、アソシエーション、NPOからも出てきてほしい。その中には障害者、外国人、高齢者などの枠も必要であろう。

鶴田委員：その際に、行政は、例えば障害者の方や育児中の主婦が会議にスムーズに参加できるような対応をきちんとできるのか。

中川委員：その必要があるのであれば、我々も考えなければならないことである。何でも一般公募でやるべきではない。実績があり、頑張っている団体の枠は必要。そのバランスは行政が決めるべきで、我々にそこまで設計する責任はないと思う。

鶴田委員：市は、補助金が予算計上されているような団体以外は把握できないのではないかと。

中川委員：当然、行政には実態調査をしてもらわなければならない。それができないのであれば、自発的にエントリーしてもらおうような仕組みにするべき。ここでルールづくりまではできるが、人選まではできない。

事務局：最終報告書の中で、検討委員会の取りまとめの視点を載せるので、その際に内容を検討していただきたい。

鶴田委員：以前生駒市が実施したアンケートの中の自由意見に「市民からどのような意見や要望があったのか。またそれらのうち、どれを実行し、どれを実行しなかったのかということ公表してほしい。」というものがあつたが、行政の対応はどうなっているのか。

中川委員：市民にも様々な種類がある。単なる要求型や、自分の意見のみを主張するタイプなど。

鶴田委員：意識の高い人は、問いかけに対する回答をもらえばさらに意識が上がると思う。

中川委員：だから、市民も行政を使いこなす技術、政治を動かす技術を学習する必要がある。

鶴田委員：現実には、生駒市にもたくさん意識の高い人がおられる。しかし、そのような方々の中でも、自分の考えと外部との調和がとれなくなってボランティアを辞めていく方をたくさん見えてきて、残念に思っている。

野口委員：そうならないような仕組みを今からつくっていくということ。現実を踏まえて、行政との協働のあり方、仕組みを今からつくろうということ。

中川委員：「参画と協働」と言うのは簡単であるが、実際は意思形成過程から関わることである。市民社会の作りなおしに行政が入りこみ、行政を変えていくために市民が入りこんでいくことになる。

私はすべて市民が正しいとは思わない。市民の苛立ちはわかるが、それは合理主義的思考からきている。実際の社会は不合理なところも多いことを理解する必要がある。

野口委員：生駒には生駒流のスピードがある。作文だけにならないように、生駒自体が変わっていくようなスピードを組み込む必要がある。慌ててはいけない。どういうふうにつくるのか、これが試金石となる。

上埜委員：市民は11万5,000人いる。この全部から意見を聞いていたらまとまりがつかない。何らかの団体やグループの代表として意見を出すのが当然ではないか。

野口委員：色々な意見を市民としてどのように調整するのか、ここでルールづくりを考えていかねばならない。

鶴田委員：お互いに歩み寄らないと前へは進まない。

中川委員：総人口が11万5,000人、うち有権者が8万人で、そのうち市会議員の投票にきている50%の4万人が政治を動かしている。その4万人の2～3%が関心を持つだけで、確実に生駒のまちは変わる。

上埜委員：その場合、政治活動とまちづくりがごっちゃになってしまう懸念がある。

中川委員：名張でもその問題が議論になっていた。

森委員：名張ではいつ頃条例になるのか。

中川委員：原案としては既に公表している。今パブリックコメントの段階であり、本年7月頃の議会には諮られるであろう。名張では合併するかどうかの大きな議論があったので、これだけのものが短期決戦でできた。

事務局：次回の会議は3月の「語る会」ということになるので、よろしく願いたい。

以上